

人財と風土が支える産業・交流都市
「酒田」を目指して

平成 28 年度

市長施政方針



酒 田 市

市議会平成28年3月定例会の開会にあたり、平成28年度の市政運営における基本的な方針について申し述べさせていただき、議員の皆様や市民の皆様からご理解、ご協力を賜りたいと存じます。

昨年9月の所信表明で申し上げましたとおり、私の市政運営の基本は「賑わいの創出に向けて、人財と風土が支える産業・交流都市」の実現です。

そのための注力すべき政策は次の3つだと考えています。

1つは「少子高齢化への対応と人口減少の抑制」、2つ目は「産業都市、交流都市としてのステップアップ」、そして3つ目が「強い思いと行動力にあふれる人財の育成」です。

本市の人口減少は、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、このまま何も手を打たなければ、平成22年と比較した30年後の人口減少率が36%に達し、県内平均の28.5%を大きく上回るという深刻な状況となっています。

将来にわたって活力に満ちたまちを維持するためには、少子高齢化への対応と人口減少の抑制が不可欠であり、何よりも優先してそのための施策を展開する必要があります。

そして人口減少を抑制する確かな道を切り開くには、本市の産業都市、交流都市としての活力を再生することが重要です。

若者が住み、活力ある地域となるためには、働く場を創出し、他地域への人口の流出を抑え流入を増やす、訪れて楽しい魅力あるまちにしていかなければなりません。

また、かつての自由都市として繁栄した歴史を踏まえたとき、これからの酒田にとっては、全ての市民がまちづくりに関心を持ち、政策や施策の形成に参画し行動するという風土、すなわち行政と議会の両輪に市民のパワーを加えた3つの車輪で市政を前に動かしていくことが大切です。

故本間正巳前酒田市長は、「オール酒田」での市政運営を旗印にしておりました。私は更にそれを推し進めて「人が財産」という信念に従い、市民の皆様の持つパワーを活かすべく、「人財」の育成と、共にまちをつくる仕組みづくりにも力を入れてまいります。

これら3つの注力すべき政策の具体的な行動計画となるのが、昨年10月に策定しました「酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。

本市の総人口は、前述の推計に準拠しますと、2060年には4万8千人程度まで減少することが見込まれます。これを「働きたいがかなう酒田をつくる」、「酒田への新しい人の流れをつくる」、「結婚・出産・子育ての希望がかなう酒田をつくる」、「つながりと安心にあふれた住み続けたい酒田をつくる」の4つの基本目標を実現することで、7万5千人程度までの減少に留めていきたいと考えております。

この戦略は、平成31年度までの5か年という短期間の計画になります。

したがって、施策の効果が少しでも早く表れるように、平成28年度は、車に例えればアクセルを思いっきり踏み込んで、酒田のまち・ひと・しごとの創生に向け全力を傾注してまいります。

併せて、総合戦略の取組状況を踏まえながら、酒田市の将来ビジョン及び市政の基本となる新たな総合計画づくりに着手いたします。

次に、平成28年度の主な取組みについて申し上げます。

1 産業力強化と交流促進の基盤づくり

(1) 企業立地による雇用の確保と地元企業支援

京田西工業団地は、平成27年1月以降だけで計8件の契約が成立し、企業の立地が好調となっています。日本海沿岸東北自動車道へのアクセスの良さや港湾都市としての高い優位性を強調し、人的・組織的ネットワークを活用しながら、企業立地に積極的に取り組んでまいります。

地元企業に対しては、地元への経済波及効果を意識した施策展開に努める基本的な方針に基づいて、意欲のある中小企業の販路拡大や競争力強化の取組みを支援してまいります。

また、企業支援を強化するため、中心市街地まちづくり推進センター、創業支援センター、異業種交流プラザ等の機能を統合し、さらに農林水産業を絡めた農商工連携機能を付加して各種相談等にワンストップで対応できる「産業振興まちづくり支援センター（仮称）」の創設に向け検討を進めてまいります。

酒田商工会議所等が実施する新産業会館の整備については、引き続き支援を行ってまいります。

(2) 山形新幹線の庄内延伸と酒田駅周辺整備の推進

山形新幹線庄内延伸は、人口減少抑制に大きな効果をもたらし、かつて最上川舟運によって形成された太い県土軸を再生させ、本地域の発展だけでなく山形県全体の飛躍的発展につながるものです。引き続き、関係機関の理解促進や市民・県民の機運醸成を図るため、沿線市町村、関係団体と連携し、その取り組みの範囲を拡大させながら積極的に事業を展開してまいります。

また、酒田駅周辺の整備については、公共施設として「酒田コミュニケーションポート（仮称）」を整備するとした整備計画方針をまとめました。

現在、事業者を募集しており、本年6月には事業予定者を決定する予定です。平成32年度の完成に向け、着実に計画を前進させてまいります。

(3) 重要港湾「酒田港」を活かした産業振興

平成7年に週1便で開設された韓国釜山港・中国上海港等と酒田港を結ぶ国際定期コンテナ航路は週7便にまで拡大し、国際コンテナ貨物利用の利便性が飛躍的に向上しました。引き続き、県と一体となって県内外の企業に積極的なポートセールス活動を展開するとともに、コンテナ貨物利用促進の助成を行い、更なる酒田港の利用拡大に努めてまいります。

また、国内外のクルーズ客船誘致による観光振興と地元への経済波及を図るため、酒田港のイメージアップと誘致受入れ環境の整備を進めてまいります。

(4) 高速道路網の整備促進運動の展開

高速道路網に未接続部分があることは、本市の産業力の強化や交流促進に大きなマイナスとなっています。

日本海側国土軸を形成するための日本海沿岸東北自動車道の整備促進や横軸となる新庄酒田地域高規格道路、そして、石巻につながるいわゆる「みちのくウエストライン」の未着手区間の早期整備着手を市を挙げて国に強力に働きかけてまいります。

(5) 観光誘客の拡大と内外交流の促進

平成27年度中に策定する酒田市中長期観光戦略を基に、官民一体となった観光推進体制を構築し、インバウンドの推進や「地酒」、「豊かな食」をテーマとしたイベントの開催に取り組むほか、広域連携による鳥海山・飛島ジオパー

ク構想の平成28年度中の認定に向けた取組みを進めてまいります。

また、平成28年度は、多くの集客が望めるイベントが予定されています。

酒田まつりの本まつりには、ミッキーマウスをはじめとするディズニーの仲間たちによる東京ディズニーシー®15周年スペシャルパレードが賑やかに開催されますので、市民や観光客の受け入れに万全の態勢を整えてまいります。

6月に行っている中型イカ釣り船団の出航式については、船上で高速冷凍する「船凍イカ」を扱う中型船団の拠点港である本市のPRと他の港に負けないブランド化に向けて、県内外から多くの来場者が見込める人気イベントにしていきたいと考えています。

9月10日と11日には、天皇皇后両陛下から御臨席を賜り「全国豊かな海づくり大会」が庄内地域を会場に開催されます。市民が海や水産業について再認識する絶好の機会とするとともに、地域に活気を生み出す交流促進の有効な仕掛けとして山形県の実行委員会と連携し万全の準備を図ってまいります。

国内諸都市との交流については、市民交流に加えて積極的に産業交流を推進してまいります。

東京都北区、武蔵野市との人的・物的交流を深めるとともに、秋田市をはじめとする北前船寄港地交流と「北前船寄港地」の日本遺産認定へ向けた取組み、千葉県酒々井町との地酒をテーマにしたイベントの開催などを行います。

国際交流については、友好都市である中国唐山市への往訪を皮切りに、姉妹都市ロシア連邦ジェレズノゴルスク・イリムスキー市の皆様を酒田にお迎えし交流を深めるとともに、アメリカ合衆国オハイオ州デラウェア市との姉妹都市締結をも進めてまいります。

さらに、イタリアの首都ローマにて日伊国交150周年事業として開催される土門拳の写真展示会をきっかけとして、本市が誇る日本酒や農産物をPRし、文化や食を通じた経済交流の促進を図ります。

(6) 魅力あふれる農林水産業の振興

平成26年度から実施されている米政策の大幅な見直しでは、平成30年以降は国による米の生産数量目標の配分が廃止される予定となっています。米価の下落が懸念されるなど農業者の間では不安が広がっている中、TPPに代表されるこれからの農業を取り巻く環境変化に対応できる足腰の強い農業を実現するため、次のような対策に取り組んでまいります。

米政策については、大口需要先の開拓・販路拡大が期待される業務用良食味米品種の新たな作付に取り組む団体に対して、現行主力品種である「はえぬき」に比べ余計にかかる生産経費を支援します。

農業分野の人づくり、後継者育成については、次代の農業を担う若手農業者が海外の農業先進国で多様な農業形態や経営を学び、国際化に対応する農業経営を確立しようとする取組みに対し支援します。

また、本市で農業を新たに始める県外からの移住希望者に対し、初期経費の一部を支援することで負担の軽減を図り、農業者の移住を促進します。

林業については、山林の荒廃を防ぎ森林所有者の意欲を喚起するため、市が率先して市有林の間伐、作業道の整備に取り組むとともに、北庄内森林組合等が行う計画的かつ適切な森林整備に対する支援を拡大します。

漁業については、内陸地域における庄内浜産水産物の認知度向上、消費拡大を目的として、山形市内で山形県漁業協同組合が行う産直ブースの設置に対し、山形県、鶴岡市、遊佐町と連携して支援するとともに、中型イカ釣り船による酒田港への水揚げの増加を図るため、これまでの収納段ボールに対する支援に加え、入港した際の乗組員のための来訪環境整備に対する支援を拡大します。

(7) 移住・定住の推進と生涯活躍のまち構想の実現

酒田への新しい人の流れをつくり、移住・定住者を増加させるため、市役所での総合相談窓口による支援や東京における情報発信窓口となる武蔵野市への「酒田市役所東京ブランチ（仮称）」の開設検討、ANAグループの人材を活用した酒田の魅力を発信する事業の展開など首都圏等に対する情報発信の充実、移住を後押しするような住宅取得費補助などの各種支援制度を総合的に実施してまいります。

また、「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想の実現に向け、本年度実施している事業可能性調査の結果を踏まえながら、事業の具体化を進めてまいります。

(8) 八幡、松山、平田地域と離島飛島の振興

八幡、松山、平田地域については、社会情勢の変化や地域ビジョンなどを踏まえて、新たに策定する過疎地域自立促進計画を基に、地域の様々な課題に対応してまいります。

また、平成27年度から八幡地域に初めて受け入れた地域おこし協力隊については、受け入れ地域を松山地域と緑のふるさと協力隊を受け入れている飛島に拡大し、地元住民と一緒に取り組む地域づくり活動を推進してまいります。

八幡地域では、鳥海山や玉簾の滝等の地域資源を活用した交流促進や、日向地区をモデル地区としたグリーン・ツーリズムも推進します。

松山地域では、「城下町の町割り・歴史と文化そして最上川の景観」として山形県の「未来に伝える山形の宝」に登録されたことから、景観の整備や案内看板の設置を行うほか、民間団体と連携を図りながら城下町をテーマとした地域づくりを推進します。また、眺海の森の観光施設等の今後の有効活用方策についても検討してまいります。

平田地域では、ひらた生涯学習センターを拠点とした自然教室を開催するなど、交流人口の拡大による中山間地域の活性化を図るほか、引き続き、田園調布学園中等部の農村生活体験を受け入れ、交流を深めてまいります。

飛島は、近年移住者が見られるものの、依然として高齢化や人口減少が著しいことから、とびしま総合センター職員の増員など支援体制を拡充し、島民、大学、NPO、県、市が一体となって、島の機能維持と活性化に取り組んでいる「とびしま未来協議会」の運営を引き続き支援してまいります。

2 子育て、子どもの教育支援

(1) 妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援

子育ての経済的負担を減らすために、保育園、幼稚園などの入園2人目の保育料軽減と3人目以降の無料化の拡充策として、小学6年生までの兄・姉から第1子として数える内容に要件を緩和し、これにより第2子、第3子以降の保育料負担を軽減します。

また、私立幼稚園の子ども・子育て支援新制度への対応に伴う施設の改築及び新設に対して補助を行うとともに、法人保育園に対する重度障がい児に係る保育士配置加算補助金を増額し、子育て支援の量と質の向上を図ります。

平成27年度に実施設計を終えた平田保育園の増改築については、平成29年4月の仁助新田保育園及び檜橋保育園との統合保育園としての開所を目指し、建築工事に着手いたします。

旧酒田商業高校施設に設置している亀ヶ崎小学校学童保育所については、学校近くの旧学童保育所跡地に60名定員の第1学童保育所と40名定員の第2

学童保育所を一体的に整備することにより、児童の健全育成と安心して子どもを預け就労できる環境整備を推進します。

日本版ネウボラ事業の本市での展開として、妊娠期から子育てまでを包括的にサポートとする場所となる「子育て世代包括支援センター（仮称）」の設置を検討し、市民健康センター、日本海総合病院、子育て支援センターなどと連携した切れ目のない子育て支援のネットワークを構築し、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに努めます。

（２）次代を担う人材の育成

次代を担う子どもたちが、安全で快適にのびのびと学校生活を送れるように、昨年６月に策定した「教育の振興に関する大綱」に基づき、本市における教育施策の総合的な推進を図ってまいります。

教育環境の整備については、各小中学校の指導・支援体制の充実を図るため、現在４０名配置されている教育支援員を６０名に大幅増員し、きめ細やかな対応により児童生徒の学習効果を高めるとともに、安定した学級指導につなげてまいります。

松山地域３小学校の統合については、現在の松山小学校を改修し、松山地域の統合小学校として活用するための設計、地盤調査等に着手します。

また、学校環境の改善を図るため、各小中学校の計画的なトイレ改修を行うとともに、スクールバスの効率的な運行のための駐車場整備を行います。

さらに、行政、高等学校、東北公益文科大学が連携し、高校生の英語力強化や高校生が提案する様々な地域貢献活動に対して支援いたします。

３ 市民協働による地域活性化と文化・芸術・スポーツの振興

（１）地域づくりのための総合交付金の創設

酒田に誇りを持ち、酒田で暮らし続けることに喜びを感じられる、そのようなまちにしていくためには、こうありたいと願うまちの姿を市民の皆様が話し合い、協力してその姿に向かって行動していかなければなりません。

歴史上の言葉に「人は城 人は石垣 人は堀」との有名な一節があります。この言葉を市政に当てはめれば、「人こそが財産」「市民の力こそがまちづくりの原動力」と言えます。

多様化する地域の課題解決のため地域の方々が知恵を出し合い、コミュニテ

イ振興会、自治会が中心となって実行できる仕組みとして「ひとづくり・まちづくり総合交付金」を創設し、市民協働のまちづくりを進めてまいります。

(2) 歴史文化の次世代への継承

本市の歴史・文化・偉人などを学び「郷土を愛する心」を育むことは、本市に生まれ育ち住まうことを誇りに思い、ひいては若者の流出を抑えるという意味でも重要と考えます。

前述しました「北前船寄港地」の日本遺産認定に向けた活動は、その意味からも意義ある取組みと言えます。

ふるさとに対する誇りや愛着を育てるため、本市出身の故吉野弘氏をテーマとした朗読会と講演会を開催するとともに、未来に受け継ぐべき伝統文化を育むため、伝統芸能等の後継者育成と保存継承団体の活動支援に取り組みます。

また、家族の時間と郷土愛の醸成につなげるため、遊佐町と連携し酒田まつりを「ふるさと休日」と定め、家族で出かける機会としてPRしてまいります。

さらに、光丘文庫の蔵書は本市の貴重な歴史的遺産であり、適正に保存し、後世に伝えていかなければなりません。現在の光丘文庫は、老朽化により管理が適切に行える環境ではなく、貴重な財産が失われる恐れがあるため、所蔵資料を中町庁舎に移転し資料の適正な保存に努めてまいります。

(3) 芸術、スポーツの振興

芸術文化が生活に溶け込むことは、人生を彩り、まちを愛する心につながるため、魅力ある多くの芸術文化事業を展開してまいります。

新たな事業としては、著名写真家を講師とする市民撮影会を開催し、「写真の街・酒田」での写真文化の推進を図ってまいります。

酒田希望音楽祭については、様々な世代から関心を持ってもらえる、市民に親しまれる音楽祭になるように企画内容の充実を図ります。

市民会館や美術館等の文化施設については、予防修繕的な考え方による対策を行うことで機能の維持・長寿命化を図ってまいります。

スポーツ振興については、市民の健康増進に寄与すべくスポーツイベントの充実を図るとともに、必要な設備の改修及び更新を行ってまいります。

利用状況が好調なパークゴルフ場については、新たなパークゴルフ場整備の可能性について調査いたします。

また、競技力向上のためスポーツ団体の強化を図るとともに、平成29年度に本市で開催予定の全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の体操競技に向け準備を進めてまいります。

4 健康づくり、福祉のまちづくりの推進

(1) 医療体制の充実と健康づくりの推進

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対して、運営費の負担や先端医療機器等の整備、施設改修等に係る支援を継続し、高度医療・救急医療を担う日本海総合病院、回復期・慢性期に対応する酒田医療センターの医療体制の充実に努めます。さらに、地域の関係機関等の協力を得ながら、医療・介護・福祉の連携について病院機構と一緒に検討してまいります。

市立八幡病院については、日本海総合病院を中核とした北庄内の地域医療体制の確立と安定した医療を提供するために、病院機構中期目標期間（平成28年度～31年度）のできるだけ早い時期に病院機構への運営移管を目指します。

市民の健康づくりの推進については、市が所有する中町の空きビルを活用して「中町にぎわいプラザ（仮称）」を整備し、加齢による身体機能の衰え等を運動でカバーするため、多様な健康づくりの事業を展開します。これにより健康づくりとまちの賑わいづくりを融合させた市街地の活性化を目指します。

ケアが難しいとされる障がい者の歯と口腔の健康づくりについては、実態把握のアンケートを実施するとともに、フッ素塗布などの予防歯科診療に助成を行い、生涯にわたる口腔衛生に関する意識向上を図ります。

(2) 高齢者と障がい者がいきいきと暮らせる環境づくり

地域全体で認知症高齢者等を見守る取組みとして、平成27年度に八幡地域で実施した「地域見守りシステム」が有効な支援手段であると検証されたことから市内全域での実施を進めてまいります。

また、飛島での高齢者の生活支援として、65歳以上の在島者を対象とした飛島定期航路運賃の補助回数を拡充します。

本市では、平成23年度に発達支援室を開設し、臨床心理士などの専門のスタッフによる保育園・幼稚園訪問支援、相談会、事例検討会、研修会等を行うとともに、関係機関と連携し、円滑な発達障がい児への支援を進めているところですが、義務教育前の発達障がい児の相談者数が近年上昇傾向にあることか

ら、さらなる発達支援体制の強化を図ってまいります。

5 環境と共生する安全・安心のまちづくり

(1) 防災減災体制の充実強化と安心できる生活環境づくり

多くの尊い命が犠牲となった東日本大震災から間もなく5年の歳月を迎える今年、昭和51年に発生した酒田市大火から40年目の節目の年でもあります。このような災害を忘れることなく、改めて防災への意識を高めるため10月に防災市民大会を開催いたします。

今般の山形県津波浸水想定・被害想定検討委員会による本市の被害想定では、津波による浸水被害だけでなく、地震の揺れがもたらす被害も大きいことが想定されました。

地震、津波、火災の複合災害から市民の命を守るため、家屋の耐震化促進等の地震への備えや、避難場所・避難路等の津波への備え、そして消防体制の整備等の火災への備えに総合的に取り組み、安全で安心して生活できる災害に強いまちづくりを推進してまいります。

そのために、「総合防災センター（仮称）」の整備に向けた用地取得等や消防署中央分署の整備を進めるとともに、防災ベッド等の設置工事に対する補助、八幡地域における防災行政無線のデジタル化、防災ラジオの自治会長等への貸与、避難所への食糧・飲料水の備蓄等を行ってまいります。

また、現在AED（自動体外式除細動器）が設置されていないコミュニティセンターの全てに、速やかにAEDの設置を行ってまいります。

日常生活に根差した防犯対策の観点からは、これまで自治会の管理となっていた防犯灯を市の管理とし、省電力長寿命のLED照明への切り替えを進めてまいります。

年々多様化、複雑化する消費者行政については、無料法律相談や生活相談等各種相談会や講座の開催など、消費者の困りごとに身近に寄り添う機会を提供してまいります。

(2) 生活基盤の整備

新市庁舎の整備については、1期工事の完成が3か月遅れたことから作業工程の見直しを行い、2期工事完成に向けて鋭意建設工事を進めています。

グランドオープンの際には、より一層の市民サービスの向上が感じられるよ

うな庁舎づくりに努めてまいります。

改築を進めている酒田市斎場については、平成30年度の供用開始を目指して建築工事、火葬炉工事等に着手いたします。

市民生活に直結する市道や橋りょうについては、緊急性や安全性に考慮しながら計画的に維持管理を行い、良質な生活環境の確保に努めてまいります。

住環境の整備については、耐震化、省エネ化、バリアフリー化に係るリフォームに、県と協調して支援を継続してまいります。

公園については、子どもや高齢者にやさしい公園づくりとして、老朽化した設備・遊具の整備、更新を行うとともに、日和山公園を潤いのある市民の憩いの場として、魅力を高めるための施設整備を行ってまいります。

生活排水対策については、長期的な視点で計画的に処理施設、管渠等の維持管理を進め、集中豪雨による浸水対策については、高砂地区での整備を進めるとともに、酒井新田地区では実施設計を行うなど事業の着実な推進を図ってまいります。

(3) 再生可能エネルギーの活用と環境共生社会の実現

再生可能エネルギーの活用については、風という本市の地域資源を生かし、原子力発電に頼らない社会構築への貢献と地域活性化につなげていくため、直営風力発電事業に継続して取り組んでまいります。

また、将来世代に快適な生活環境を引き継いでいくことができるように、ごみ処理施設の安定稼働のため、酒田地区広域行政組合への分賦金を負担してまいります。並行して、ごみの減量化や資源回収を推進し、家庭から排出されるごみの有料化に向けた検討も進めてまいります。

6 東北公益文科大学との「大学まちづくり」の推進

(1) 新しい大学まちづくりの推進

公益大に入学し酒田で学生生活を過ごした若者に、そのまま酒田に定住してもらうため、卒業後酒田に居住し就業する方を対象に奨学金の返還を支援します。なお、この制度により酒田への定住を選択してもらうことをねらいとするため、これから就職活動を行う平成29年3月卒業予定の学生からを対象といたします。

また、新規採用する市職員（高校卒業程度）の中から選考し、公益大に4年

間の研修派遣を行います。公益の視点によるまちづくりのノウハウを地元大学で体系的に習得することにより、地域を先導する人材としての成長が期待されます。

さらに、これまで実績が少なかった教育委員会と公益大との連携を探るため、放課後学習支援などの取組みを試行的に実施するとともに、関係者による意見交換を行い、活動の効果や課題などの把握に努めます。

(2) グローバルな人材の育成に向けた連携

平成27年度に試行的に行った「グローバル・セミナー」では、市内の高校生が多数参加し、2日間、英語漬けのプログラムを体験することにより、本市の未来を担うグローバルな人材育成のノウハウを得ることができたことから、地域連携人材育成事業として来年度も継続して実施してまいります。

その他、インターンシップや社会福祉士実習の学生の受け入れ、先輩公務員が仕事のやりがい等を学生に伝える公務人材育成を目的としたセミナーの開催、IT関連をはじめとする起業家の育成を目指した「コワーキングスペース アンダーバー」の運営、学生の街なか活動を促進するための「るんるんバス利用支援」など、近年新たな連携を進めています。

今後も一層連携を深め、市と大学が一体となった「大学まちづくり」を進めてまいります。

7 次期総合計画づくりの着手と市政への市民参画の促進

(1) 市民参画による総合計画づくり

はじめに申し上げましたとおり、平成20年に策定した現在の総合計画が平成29年度で終了することを踏まえ、新たな総合計画づくりに着手します。

平成30年度から10年間の新たな本市の将来ビジョン及び市政の基本となる総合計画の策定にあたっては、より多くの市民の皆様に参加していただき、現計画の評価と検証を行い、市民共有の指針となるような計画づくりの仕組みをつくってまいります。

具体的には、「総合計画未来会議」をワークショップ形式により開催し、市民の市政への参画を促し、できる限りの対話を経て多くの参加者が納得して合意形成が図れるよう運営してまいります。

また、日和山地区の景観形成重点地域の指定や、酒田駅周辺整備など、個別

の事業においても、市民の皆様から「他人事」ではなく「自分事」として地域課題を考えていただくために、市民ワークショップの開催を検討してまいります。

これらのワークショップにおいては、市民の主体性を育み、参加と協働を促すため、専門的なスキルを持つファシリテーターを積極的に活用していくとともに、公益大と連携して、市民の中にも地域住民の参加と協働を促す仕掛け人となる人材を育成するため、その養成プログラムの開発について検討してまいります。

(2) 市民意見を市政に反映させる仕組みづくり

若者、女性、子育て世代によって構成する「元気未来会議」を設置し、ワークショップや模擬議会などを実施することにより、様々な発想を市政に反映させる仕組みを考えてまいります。

また、産業界、大学等により構成する「産業・交流都市創造会議」においては、各界のオピニオンリーダーから、戦略的な産業・交流都市づくりへの提言を得たいと考えています。

市民の皆様との市政懇談については、市が企画するのではなく、皆様の自発的な企画に私たちが積極的に出向き、気軽に懇談できるような場づくりを地域、企業及び各団体に働きかけてまいります。

8 人財と風土が支える産業・交流都市の実現に向けた組織体制の整備

市民の皆様から市政により関心を持ってもらうため、市役所内の組織の見直しと機能の充実を図ります。

分かりやすく市の施策や事業をお伝えし、できるだけ多くの市民の皆様と意見を交わし、必要な対策の具体化にすぐに取りかかれるようにする機動的なセクションとして「市長公室」を新設します。

市長公室では、広報紙やホームページといった広報機能の充実に加え、若者、女性、子育て世代、産業人等、様々な人達から提言をいただいたり、意見交換できる新たな仕組みとして、前述の「元気未来会議」、「産業・交流都市創造会議」などの「酒田未来会議」事業を実施し、スピード感を持った施策構築を進めてまいります。

9 効率的な行政運営と健全財政維持

平成28年度から合併算定替の措置が漸減し、本市の財政を取り巻く環境が厳しくなります。

多様化する市民ニーズに応えながら、将来にわたり本市が持続して発展していくために、新たな行財政改革推進計画をスタートさせるとともに、課題の解決に向けた検討を行うことにより、行財政改革を着実に推進してまいります。

また、公共施設における財政負担の軽減と計画的な保全体制のあり方についてまとめた「公共施設長寿命化計画」や、インフラを含めた本市が保有する公共施設等の管理の考え方や保有のあり方をまとめた「公共施設等総合管理計画」を策定するとともに、より高い能力を持った職員の育成と組織全体の公務能率の向上を目的とした人事評価制度を導入し、効率的な行政運営に努めてまいります。

さらに、資産・債務の適切な管理効果による健全財政の維持を図るために、新公会計制度の導入を着実に進めてまいります。

(むすびに)

新しい市庁舎のエントランスホールには、北前船をモチーフとした飾りがついた振り子時計が据え付けられています。

私は、この時計には北前船の寄港地で栄えた酒田が将来も港を中心に発展するよるといふ願いが込められているだけでなく、「これから新たな時代の航海に船出するぞ」という強い意思が込められていると思っています。

酒田の大航海時代の始まりに臨み、希望と勇気を持ってしっかりと舵取りをしながらまちづくりを進めていく所存ですので、改めて議員の皆様、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、新年度の施政方針といたします。